

# 平成 20 年度(2008 年度) 事業報告書

## LOOB JAPAN



### 1. 概況経緯

2001 年の団体発足以来、北海道、仙台、東京、大阪、福岡の会員が中心となり、日本とフィリピンの文化的・教育的な人的交流、および現地の低所得者層を対象とした地域開発、教育・医療支援などの活動を推進してきました。

2008 年は、特に北海道、東京、大阪の理事が中心となり、国際協力イベント、広報活動、説明会・交流会を増やすなど、国内活動の幅が広がりました。

現地では、LOOB 独自の青少年育成活動(ワークキャンプやインフォーマル教育活動)以外に、他団体との共同事業が進み、さらに LOOB としては初めて、外部団体から助成金を受けるなど、活動面でも収入面でも前年から大きく飛躍した年となりました。2 年目となるイロイロ市ごみ投棄場の周辺住民支援である「裁縫プロジェクトおよび教育支援」では、ジュースパック製品の販売が好調に推移し、組合員の新しい生計手段の確立という一定の成果を挙げる事ができました。教育支援では前年比 2 倍以上の子ども達に奨学金を支給する事ができました。2007 年後半から、約半年ごとに日本人ボランティアスタッフが駐在しており、日本とフィリピンのボランティア・ネットワークの潤滑油となっていることが、教育サポート会員の増員となったもようです。

なお、LOOB では任意団体のメリットを維持するため、法人化の計画は無期延期としましたが、活動を支えてくれている多くの会員のため、可能な限りの情報公開を行っていく予定です。

今後も支援先のコミュニティとの関係構築を進めながら、日本／フィリピンの青年ボランティアの異文化交流・地域支援活動を促進していきたいと考えています。

## 2. 事業に関する報告

### (1) 開発途上国における地域協力・地域交流プログラムの実施

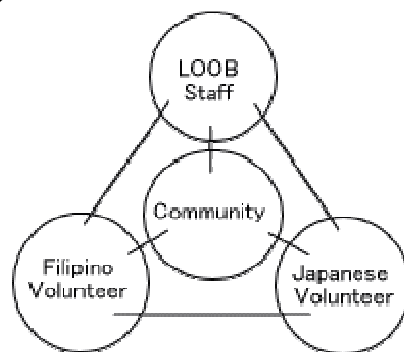
#### ◆ 青少年育成&国際交流事業 (計8回)

1. 国際教養大学スタディツアー: 漁村ホームステイで大学生と現地ボランティアの文化交流プログラムを実施。
2. 第24回ギマラス島ワークキャンプ: 環境天然資源省(DENR)との連携で、2回目となるマングローブ植林を実施。16,000本を植えることができた。また3地域の低所得者層の子供35人を招待し、第1回無人島Kids Campを開催した。
3. 第25回パナイ島ワークキャンプ: 前年度のワークキャンプで着手した小学校の教室増築を引き継ぎ、教室一つを完成させた。
4. 第26回イロイロ市スタディツアー: 都心部の貧困問題を中心に扱い、ごみ投棄場および児童養護施設の視察・交流を実施した。
5. 周南青年会議所(JC)日比青年交流事業: 35名の有志により、低所得者のための地域貢献活動と文化交流を実施した。
6. 早稲田大学ESTキャンプ: 学生NGOとのコラボレーションにより、ナティビダッド小学校の教室一室を建設。これにより小学校4年生が同校内で進級できることになった。
7. 第27回ギマラス島ワークキャンプ: DENRと3回目となるマングローブ植林を実施し、20,000本を植樹。また3地域の低所得者層の子供30人を招待し、第2回無人島Kids Campを開催した。
8. 第28回パナイ島ワークキャンプ: コミュニティの上水道を敷設し、3箇所共同の水汲み場を設置。これにより15世帯の村人が安全な水を確保できるようになった。



#### ◆ ごみ投棄場(スモーキーマウンテン)周辺住民支援事業

今井記念海外協力基金の援助を受け、イロイロ市ごみ投棄場でごみ回収作業ができなくなる住民のため、新しい生計手段となる裁縫プロジェクトに参加。裁縫技術向上セミナーや管理者育成セミナーを実施して、組合組織CSNの能力引き上げを行った。ごみから回収したジュースパック製品は技術が格段に向上したことで、日本からの受注が増え、収入の安定化に寄与できた。



## (2) 開発途上国の子ども達への教育・医療支援

◆**こども教育サポート**： 3地域の貧困世帯の子供達74名に対し、学資金を支給した。支援規模は前年の35名から倍増した。2008年からスポンサーと子供の1対1の支援を辞めてプール式にしたが、これによって拡充できたインフォーマル活動が評価され、結果的に子供の通学支援を増やすことができた。

◆**インフォーマル教育(子供英語アクティビティ+栄養食配給)**： 貧困世帯が多い地域に日本人とフィリピン人のボランティアが週末出張し、子供達の英語力やアートでの表現能力を引き上げるための野外活動を実施した。栄養食を配給し、手洗いや基礎的な栄養知識を普及。2008年は約40回実施。またごみ投棄場があるカラフナンでは、ごみの量が増え、LOOBがアクティビティを実施できる空き地が少なくなっていることから、JICA基金の援助を受け、郊外のビーチやLOOBのパートナー・コミュニティに出向いて行う野外活動も増やした。

◆**こども医療サポート**： 先天性肢体不自由を抱える男児(8歳)に対し、日本からの募金で義足を寄贈した。

◆**ジュースパック・リサイクルキャンペーン**：CSNのジュースパック製品の原料として役立て、さらに青少年にリサイクルの意義を知ってもらうため、小学校・高校・大学でジュースパックのリサイクルを宣伝し、回収する作業を行った。

◆**教育環境についての世帯調査**： ごみ投棄場があるカラフナン地域で未就学やドロップアウトの児童数を把握するため、200世帯以上を対象に聞き取り調査を行った。(集計は1月末予定)

◆**My絵本プロジェクト**： 小規模ではあるが、日本から寄贈される絵本を、現地日本人ボランティアが英訳して小学校に贈る活動も行った。4月から12月まで35冊の絵本翻訳を完了し、ランブナオ町ナティビダッド小学校に寄贈した。



(以上、LOOBの地道な教育支援活動がフィリピン教育省より評価され、2008年に正式な教育パートナーNGOとして認知され、記念の盾を受賞した)

## (3) 開発途上国の困難な状況にある地域・世帯への物資支援

◆**物資・衣類寄贈**： ギマラス島、パナイ島の貧困世帯・地区を訪問し、日本の有志から受け取った衣類や生活用品を寄贈した(約100世帯に配布)。2008年はピアノやリコーダーなどの楽器の寄贈が多かったため、設備の乏しい遠隔地の学校に出張し、児童に楽器の使い方を教えて寄贈した。



#### (4) 国際理解のための日本文化・海外文化の普及

◆英語研修&週末ボランティア：途上国の問題を勉強しながら、英語をツールとして、現地の方々と交流するプログラム。週末のボランティアは、主に子供英語アクティビティ+栄養食配給を行うインフォーマル教育を実施した。

◆日本語教師プログラム：公立高校や大学などの外部機関で、少人数(2~3人)から大人数(30~40人)のクラス運営を行う日本語教師育成プログラムを実施。



#### (5) 国際協力および国際交流のための募金活動と広報の実施

◆チャリティフリマ：北海道、東京、名古屋、大阪、広島、福岡で計14回のチャリティフリマを実施した。また現地フィリピンでは5回にわたってぬいぐるみフリマを行った。どちらも収益金は2009年度のこども教育サポート基金とする。

◆説明会・広報活動：1~4の国際交流・国際協力プログラムの会員・支援者を幅広く獲得すべく、東京と大阪で説明会および会員の事前交流会を実施した。横浜国際フェスティバルに出展し、会員約30人の協力で。



#### (6) 機関紙の発行

◆ニュースレター発行：2008年1月と7月の2回発行。100部配布。

### 3. 事業地に関する報告

LOOBのパートナー・コミュニティ。 balanガイ(行政最小単位)レベルで協議しながら、住民と相互協力の関係を目指しています。

- ・ギマラス島サンロケ村
- ・パナイ島ティグバワン町ナムコン村
- ・パナイ島ランブナオ町ナティビダッド村
- ・パナイ島イロイロ市マンドリアオ地区カラフナン村

### 4. 助成に関する報告

今井記念国際協力基金  
大竹財団  
JICA 基金  
「かめのり賞」受賞